

市政懇談会から

7月から9月にかけて、女性、農業、商工業、教育、保健福祉、企業、NPO・ボランティアの各分野の団体の代表者と市長、助役、教育長らで市政懇談会を開催しました。また、若い世代を代表して学生との懇談会を行い、合わせて97人が出席し、市政全般について意見交換が行われました。いただいた多くのご意見・ご質問の中から一部を紹介します。

まちづくり

更生病院の跡地利用

更生病院の跡地は、官民が連携しての開発を目指している



Q 更生病院の跡地に老人ホーム、デイサービス、幼稚園、ミニ図書館などの複合型施設を建設できないか。
A 市が単独で更生病院跡地に施設を作るという財政状況にはありません。できれば、民間のプランと周辺に住む人々に対する公共サービスが連携して、官民による開発をしたいと考えています。若い若きも皆が集える生涯学習施設を作りたいと考えており、また、市民サービスのためのフロア、老人のための施設などは地域の要望を取り入れながら検討したいと思います。なお、幼稚園・保育園などの施設については、更生病院跡地北側の経済連の跡地を社会福祉法人に活用していただく予定です。

風俗店への規制

Q 更生病院が移転して、空き店舗が増えている中で、風俗店がかなり増えてきている。市民憲章にあるように住みよいまちづくりという基本方針がある中で、市民グループが夜回りをするなど市民運動が活発になっているが、市としても、規制をかけるなど対策をとってほしい。

A 市が現在取り組んでいるのが空き店舗対策です。商業者、ボランティア団体、NPOなどに補助をすることによりチャレンジ精神を持った人たちに空き店舗で新たに商売を始めていただきたいと願っています。7月にもN.T.Tの空きビルに新しく地域サポートセンターができました。空き店舗を少なくすることで、今問題となっている風俗店の出店に歯止めをかけたいと思っています。また、平成17年に完全施行される景観緑三法は、都市の景観を良くしようとする法律です。市町村の独自条例により看板やネオンの規制ができるので、この法律のスタートとあ

産業振興

工場誘致

Q 明祥地区への工場誘致が決まったが、多くの魅力的な土地があるので、新たに工業団地の計画はないか。
A 農地保全とのバランスが大切ですが、工業関係はできることであれば力を入れていきたいと考えています。明祥地区工業団地では、あわせて4社に15・6畝の土地を購入していただきました。今後も景気の動向、企業の進出の意向、土地の規制との絡みを見て、少しでも多くの企業に進出していただけるような取り組みをしたいと思っています。総合計画の中に

も工業用地の確保に努める旨を明記します。

農業の担い手の育成

Q 現在農業に従事している人は高齢化している。特に水稻を主体にした若い担い手がなかなか育成されていない。日本デンマークでもあることから、水稻の担い手を育成してほしい。また、食糧の自給自足のためには農家の自立が必要だと思いが、その支援について伺いたい。
A 市内には新しい農業の担い手がない地域もあります。本年度、全農家を対象に農家経営実態調査を実施し、その結果を踏まえて農業に従事する人々の意識、今後の水田利用に対する考え方を把握したうえで、将来の土地・水利用などのあり方を含め、担い手の育成について考えていきます。また、国の農業施策も専門家と直接補償する考えがありますので、市としても国と同一歩調でいきたいと考えています。



農業の担い手の育成が求められている

防災・防犯

台風時の学校の対応

Q 台風6号の際、当日午前10時ごろにこの地域に暴風警報が出され、各小中学校とも生徒に帰宅の指示がされた。しかし、その時点で風雨は相当なものであった。暴風警報が出された後に、誰もいない家に子どもを帰宅させること、子どもだけで帰宅させることなど疑問がある。
A 暴風警報が出ると、各学校ごとに地域の実情に応じて対応しています。今回の暴風警報が出たときには、通学団を編成し、教師が付き添って帰宅させたり、保護者が家にいない児童生徒については保護者が迎えに来るまで児童を学校で待機させたりという対応をした学校もあります。今回の事例で生じた課題について研究し、今後十分に生かしていきたいと思えます。

地域パトロール

Q 最近、子どもが巻き込まれる事件が多い。現在、市内でも多くの人々が地域の安全のために尽力されているが、例えば「防犯パトロール」というプレートなどを地域の人々に配布して自転車に貼ってもらい、目に見える形でパトロールなどをする子どもや父兄も安心できると思うが。
A 現在、地域でパトロールをしていただく際のタスキなどの備品を市で提供しています。市内の小中学校では、自転車の前かごに「パトロール」の表示を付けて活動しているところもあり、今後、各小中学校などと相談して進めていきたいと考えています。

道の駅
Q 地元で生産された農作物を地元で消費するために「道の駅」の拡充、施設の充実を考えてほしい。
A 道の駅は年間1億5千万円の売り上げがあり、地産地消の拠点として、農家から大変喜ばれています。しかし、デンパークの駐車場に建設し



地元農産物の直販などで人気の道の駅

緊急災害時の障害者支援

Q 東南海地震などの緊急災害時に備



経営改善を目指すデンパーク

生活環境

デンパーク

Qデンパークは特長のある公園として注目されているが、市は運営管理のため相当の財政負担をしている。その財政負担を軽減するためにも、子どもが喜んで入園できるような工夫をして入園者数を増やすことができないか。

Aデンパークは年々入園者が減ってきています。入園料収入も減り、テナントの経営も苦しくなっているようです。入園者を増やす考え方も、入園者がこの程度でも、体質改善を図って運営をしていく考え方があります。デンパーク開園10周年の時にリニューアルを予定して、子どもが喜ぶようなスペースを作っていくたいと考えています。また、体質改善につきましてはコンサルタントによる調査資料を基に改革にとりかかっています。

バーベキューのできる公園

Q直火で飯ごう炊飯やバーベキューのできる公園を造ってほしい。

A現在、市内の公園では、たき火をすることが禁止されています。しかし、バーベキューなどを公園でしたいという要望も高まっていますので、すべての公園で実施することはできませんが、周囲の状況を見極めたうえで、飯ごう炊飯やバーベキューに

対応できる施設の整備に努めたいと考えています。

保健福祉

介護保険事業

Q介護保険事業を担う民間事業者に対して市が期待していることは何か。

A介護保険制度が平成12年に始まって5年目を迎える今年、在宅サービスの利用者は4年間で約2倍に増え、「量的な拡大」に伴い「サービスの質」が大きな課題となっています。このため介護保険制度の見直しが行われており、ケアマネジメン卜の体系的見直し、マネジメントを担う中核機関としての地域包括支援センター（仮称）の整備、すべての事業者に対する情報開示の徹底、介護に携わる人の専門性を重視した人材育成と資質の確保について検討されることとなります。このように介護保険制度の大幅な見直しを検討される中、市としても事業者への動きをできるだけ早く情報提供し、事業者には、より質の高いサービスを実施していただけることを期待しています。

市民参画

NPOと市の協働

QNPOと市の協働について、市の考え方を伺いたい。

A公共サービスの担い手が多様化し、新しい社会ニーズの担い手としてN

P Oへの期待はますます大きくなっています。行政とNPOとの対等な関係でのまちづくりを進めていくにあたり、「あいち協働ルールブック2004」を協働の基本理念として市職員の意識啓発を図り、NPOとの協働を進めていきます。また、来年1月に秋葉レストハウス内に開設予定の市民活動センターの運営業務をNPO法人に委託契約します。

男女共同参画

Q国の重要施策に位置付けられている男女共同参画について、第7次総合計画の基本構想に明記してほしい。また、地域・行政・教育現場における男女共同参画を市はどのように考えているのか。

A男女共同参画の施策については総合計画審議会のご意見をいただいたうえで計画の基本構想に「男女共同参画社会の実現」を明記する予定です。地域活動では多くの女性が参加しているにもかかわらず、その方針決定の場に女性が参画しにくい慣習があると思いますので、女性の参画を促す啓発事業を開催します。行政においては、審議会などの委員への女性の登用を進め、また、市職員の意識改革を促すために職員研修を行っています。教育現場では、男女の教師が力を合わせ活動し、家庭でも男女が共同していくことを伝えていた

なるようなごみの焼却も行われているが対策をしてほしい。
●各家庭で出た生ごみを、共同で設置した大きなコンポストでたい肥化し、皆で利用することはできないか。環境首都とするためには、市民一人ひとりの意識が大切だと思つ。
●幼いころから市に対する意識を高めるべきだと思つ。社会教育の面からも市・地域に目を向けさせ、意識を変えらるというた施策が必要だ。
●障害のある子どもの親から「子どもの住居、生活の手段が確保できず安心できない」という話を聞いた。障害者に対する人々の心のバリアをなくす必要があると思つ。
●西三河全体で犯罪が増えているので対策をしっかりとってほしい。
●青年団で活動しているが、活動があまり知られていない。同世代の中で最も地域に密着している青年団をもっと知ってもらいたい。



市政懇談会には延べ97人が出席。学生との懇談会でも活発な意見が交わされた。(手前中央が市長)



安城市民活動センターが置かれる現在の秋葉レストハウス

だくことで、子どもたちに男女が共同する大切さを伝えていきたいと思つています。

外国人

Q外国人の雇用が増えているが、グローバル化に対応したまちづくりをしなければならぬ。外国人が「安城に来て良かったね」と言えるように、案内パンフレットや生活ガイドを出すなど市として対策をしてほしい。そのうえで、外国人・日本人がともに楽しく安心して過ごすことができればグローバル化に対応した社会ができると思つ。

A英語・ポルトガル語により広報の一部翻訳を始めたり、英語、ポルトガル語表記の生活ガイドブックを発行したりしており、中国語表記の生活ガイドブックも発行予定です。また、市役所窓口におけるポルトガル語通訳のための臨時職員を置くなどの対応をしています。これまでの国際交流は、海外との姉妹・友好都市交流を中心に行ってきましたが、今後は在住する外国人とのふれあいの場を充実させたいと考えています。

行政運営

広域連合

Q広域連合による消防活動の状況、評価はどうか。ほかに広域的に行つたほうが有効と考える事務はないか。

学生の意見

若者と市長が安城の未来を語る懇談会が行われ、新鮮な感覚を持った12人の学生から市政へのさまざまな提言がありました。その一部をご紹介します。

●三河安城駅やデンパークはあるが、安城のことはあまり知られておらず悔しい思いをした。安城市を県外の人にもっと知ってほしい。
●子どもにとってはお父さんもお母さんも必要な存在のため、幼稚園・保育園に男性保育士・教諭がいると、子どもにとって頼もしい存在になると思つ。

●毎年、当たり前のように行われている七夕まつりも、商店街や振興組合、市役所などたくさんの方が関わっていることを知った。若い人たちがもっと参加する手段があれば、もっと安城を好きになると思つ。
●今は高山市に住んでいるが、久しぶりに安城に帰ってきて、ごみが多いことに気づいた。隣近所に迷惑に

今回の市政懇談会や昨年行ったまちかど座談会、また、ご意見BOXやメールなどでいただいた市民の皆さまからのご提言については、今後の市政運営にできる限り反映していきます。今後とも皆さまからのご意見・ご提言をお待ちしています。